

リワーク支援における 利用者とのかかわりについて

第14分科会

○ 角 智宏 (鹿児島県 社会福祉法人清流苑 本部長)

鹿児島県出水(いずみ)市

人口 51,436人(令和6年9月 現在)

位置 鹿児島県の北西部

東経130度14分～130度30分

北緯31度58分～32度10分に位置

陸の三方を阿久根市, 薩摩川内市, さつま町, 伊佐市および熊本県水俣市に接し, 北西は八代海(不知火海)に臨む。

面積・ひろがり

面積は, 329.98平方キロメートル, 東西への広がりは約27キロメートル, 南北の広がりは約23キロメートルになる。



日本最大のツル渡来地



日本有数の武家屋敷群

社会福祉法人清流苑 概要

○多機能型事業所 紫尾の里

- …自立訓練(生活訓練)(定員6名)
- …就労継続支援B型 (定員14名)

○やはづ園…就労継続支援A型 (定員20名)

○共同生活援助事業所 一ツ葉 (ひとつば) (定員9名)

○就労定着支援事業所NEXTAGE



社会福祉法人清流苑 概要

○多機能型事業所 紫尾の里

- …自立訓練(生活訓練)(定員6名)
- …就労継続支援B型 (定員14名)

○やはづ園…就労継続支援A型 (定員20名)

○共同生活援助事業所 一ツ葉 (ひとつば) (定員9名)

○就労定着支援事業所NEXTAGE



○多機能型事業所 百花（もか）

…自立訓練（機能訓練）（定員6名）

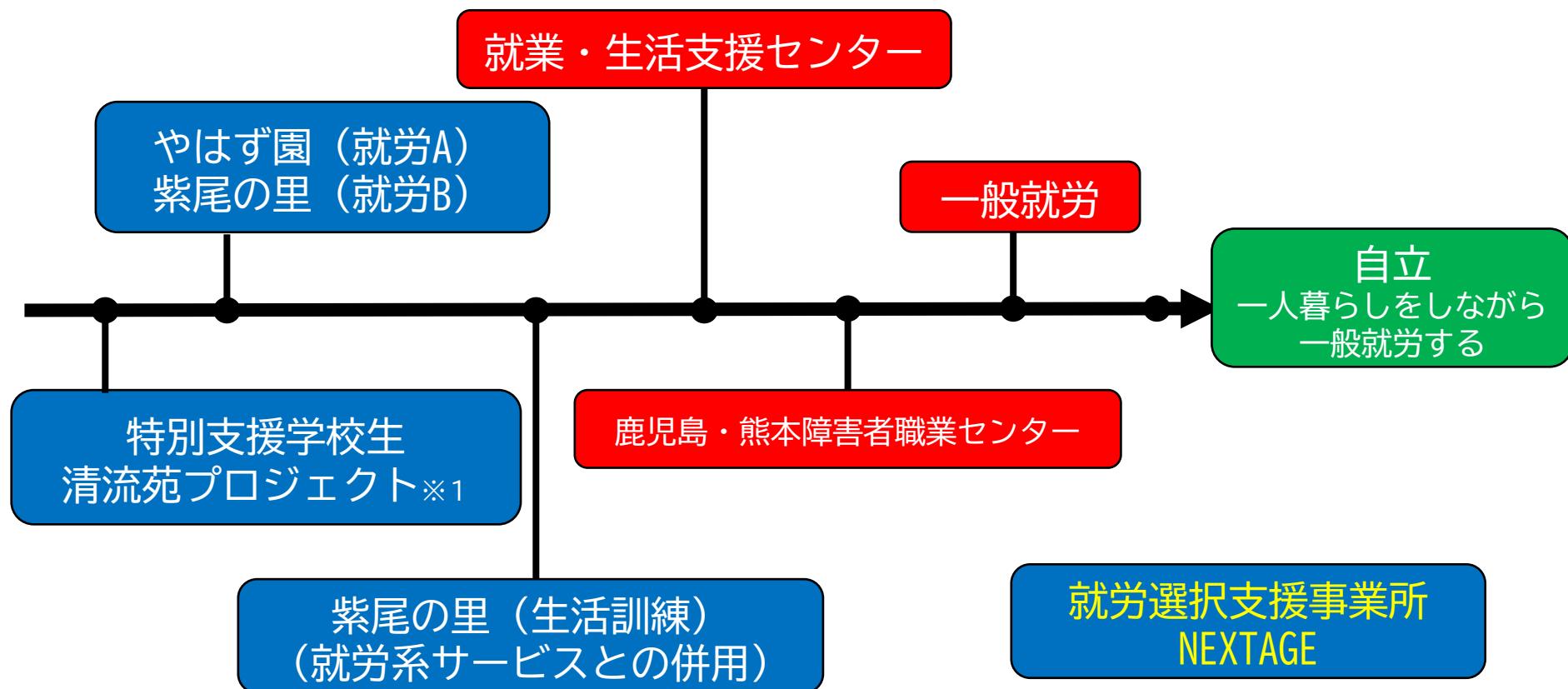
…就労継続支援B型 （定員14名）

○生活介護事業所 心楽（ここら）（定員20名）

○共同生活援助事業所 百楽（もらく）（定員10名）



キャリア教育の観点から支援学校在籍時より、学校と連携してキャリア教育を行い、福祉サービス利用終了後も、継続してサポートを行うことができる事業所です。
(キャリアコンサルタントが在籍しています)



※1 清流苑プロジェクト…特別支援学校向け就労・宿泊体験事業

Aさんの概略

- ・ 支援学校卒業後、当法人（就労A・共同生活援助）へ入職。
- ・ おとなしい性格
- ・ 意志の表出は少ないが、言葉かけをすると反応はある。
- ・ 遅刻や欠席はほとんどない
- ・ 車が好き。免許取得もした。
- ・ 趣味はスマホのゲームなど
- ・ 日ごろの移動は自転車

Aさんの転機

- ・ 当初はリサイクルの分別作業だったが、施設外就労先の変更により、一時はB型への移行も検討。
- ・ 現在の施設外先がAさんに合って、主力として活躍中。

- ・ 昨年9月に祖母が逝去
- ・ 1か月近く落ち込んでいたが、仕事には出ていた。
- ・ 9月末～10月初旬に暴れたり、迷惑行為をおこなって苦情が上がるようになった。

入院前のAさんの様子

- ・大声で叫ぶ
- ・仲間の部屋に入り、ベッドで横になる
- ・トイレに入っている人を閉じ込める
- ・洗面台で水浸しになりながら髪や顔を洗う
- ・部屋のドアや、壁を叩く

※元々、異変を感じていたこと（一部）

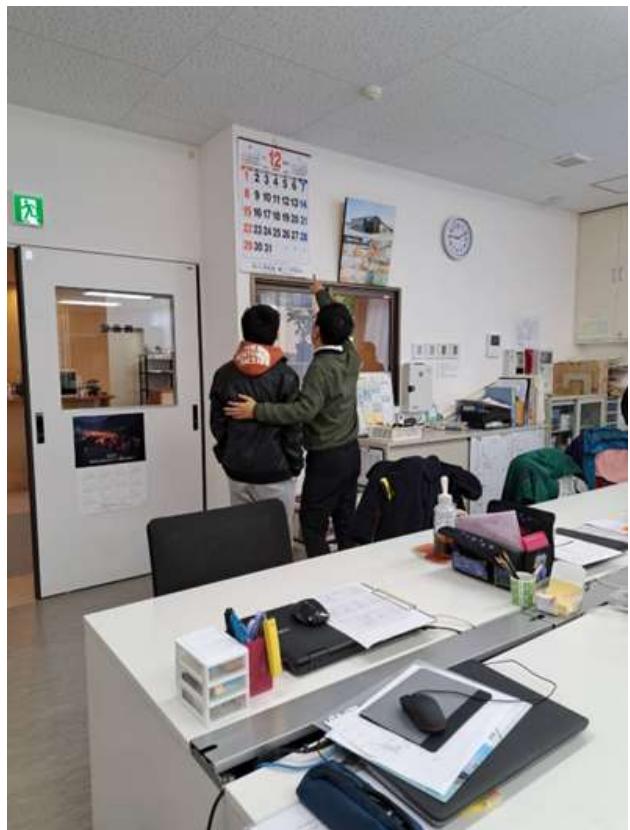
- ・反応が鈍い（聞いているのか不明）
- ・会話がかみ合わなかった
- ・時間に遅れることが多くなった

まず取り組んだこと（入院前）

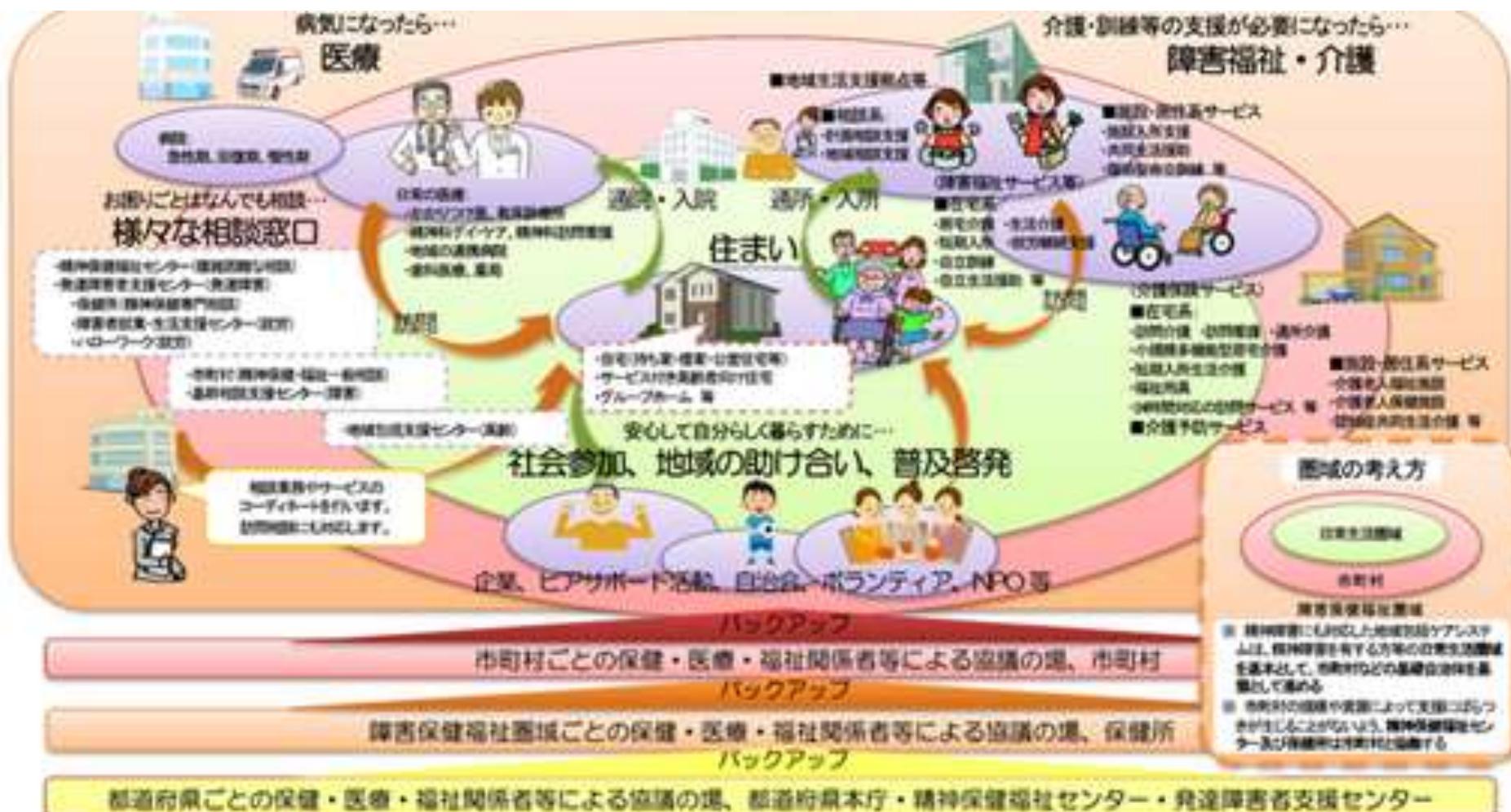
- ・本人への確認（今の気分、気になることなど）
- ・周囲への聞き取り
(施設外先の様子、世話人勤務後の様子、休みの日の様子など)
- ・関係機関への連絡
(相談支援員、家族)
- ・緊急時の連携体制の見直し
- ・地元の心療内科への受診
- ・地元の精神科への受診

入院中に取り組んだこと

- ・面会時の本人への確認
(今の気分, 気になることなど)
- ・関係機関への連絡
(病院の相談員, 相談支援専門員, 家族, 法人内連携)
- ・緊急時の連携体制の見直し
- ・複数回における一時帰宅支援
- ・GHメンバーとの波長合わせ



入院中に取り組んだこと



退院後の様子

- ・ Aさんは退院後、現在まで比較的安定して仕事や生活を送ることができている。
- ・ Aさんが退院した後を見込んで、事前にいろいろな準備をしてきたことが上手くいっている部分と、医療機関との連携を密にしていた点がある。
- ・ 担当の先生から「苦しくなったらいつでも連絡して、来ていいからね」とアドバイス



Aさんは、まず自分の事業所でリハビリを行った。いきなり施設外先に出してしまうと、目が届かなかったり、本人も不安になってしまふかもしれないという配慮のもと、企業も交えたリワーク支援を行った。

メンタルヘルス・ファーストエイド

- ・専門家の支援が提供される前にどのような支援を提供すべきか、どのように行動すべきか、という対応法を身につけるものがメンタルヘルス・ファーストエイドである。
 - ・日ごろからどこに専門家がいて、社会資源として何があるかを知っておく必要があり、ネットワークの構築に取り組んでおくと、スムーズにつなぐことができると改めて感じた。



Aさんとの今後

- ・課題解決に向けて
- ・「働きたい」という思いを尊重していくこと
- ・Aさんの継続就労、自己管理支援（体調・服薬等）に向けて
- ・強みを生かした「できること」の自己理解に向けて
- ・Aさんの勤務する企業成長につながる支援
- ・今後の職業生活設計を共に考えていく